

2013年度
KMJフィールドワーク
(通算11回目)

江戸幕府265年を支えた
儒学・朝鮮朱子学
伝授の足跡をたどる



(藤原惺窩)



(姜沆)



(赤松広通)

江戸幕府265年の治世に不可欠だったのは藤原惺窩に始まる儒教。それは秀吉の朝鮮侵略で日本に連行された姜沆（カンハン）の朝鮮朱子学の教えを受けて生まれた。その教えに基づく理想の国づくりを目指した赤松広通。彼の遺した兵庫県・和田山竹田城址は今や「天空の城」となって眼前にそびえ立つ。

【開催要項】

【日時】 2013年9月28日(土)・29日(日)

【参加費】 10000円(バス代・ガイド代・資料代)

【宿泊費】 14000円(朝・夕食付き)
*宿泊先 ホテル夢乃井(播州塩田温泉郷)
(兵庫県姫路市夢前町前之荘187)



【募集人員】 25名(先着順)

【注意事項】 ①お部屋は一部屋で複数名となります。
②一人部屋をご希望される場合は、10,500円追加料金がかかります。

【申し込み】 別紙、申込用紙にて郵送もしくはFAXにてお申し込みください。その際、天王寺駅出発か新大阪駅をチェックしてください。後日、集合場所などの詳細を記した書類をお送りいたします。

【締め切り】 9月13日(金)

【連絡先】 一般社団法人在日コリアン・マイノリティー人権研究センター(KMJ)
大阪市生野区中川西3丁目10番18号
TEL06-6717-2701 FAX06-6717-2702 E-mail: kmj@star.odn.ne.jp
担当: 高 敬一・宋 柔京

【コース】

9/28 (土)	
08:00	韓国民団堺支部出発
08:45	J R天王寺駅 天王寺公園バス乗り場集合
09:00	出 発
09:45	J R新大阪駅 (場所は後日ご案内します)
10:00	出 発
11:00	伽耶院 (百済氏の話) 古代朝鮮の国名に由来?の古刹。この地近隣の地元出身の百済保孝さんから「百済姓について」お話ししていただきます。
12:00	藤原惺窩生誕の地 藤原定家12代目の惺窩が七歳まで過ごした荘園館跡。戦国大名別所長治によって一族滅亡。竜野の寺で修行中の惺窩は京都に出て、朝鮮朱子学者姜沆との運命的な出会いをし、近世儒学・朱子学を日本に樹立させた。
12:45	昼 食 (和食ながさわ三木店 兵庫県三木市府内町2-24)
13:45	三木城址 藤原惺窩の一族を滅ぼした戦国大名別所長治の居城跡。赤松広通 (後述)と同族。豊臣秀吉によって滅亡。
14:15	金物資料館 三木の金物は堺、新潟三条と並ぶ全国ブランド。そのルーツは大和鍛冶と韓鍛冶と記す館案内掲示板。
16:00	ホテルチェックイン
16:30	ホテルミニ講演 ①愛媛県大洲市に建つ儒者姜沆の顕彰碑について 姜健栄さん (大同クリニック) ②姜沆・藤原惺窩・赤松広通について 藤原史朗さん (KMJ 常務理事)
17:30	終 了
19:00	夕 食
9/29 (日)	
09:00	ホテル出発
10:00	天空の城 竹田城址 藤原惺窩を介して姜沆に出会い、二人のスポンサー的存在だっただけでなく、自ら儒学に基づく理想の国づくりを志した戦国武将赤松広通の居城。
12:00	昼 食 (竹田城址にて)
14:30	斑鳩寺 (姜沆の碑文) 近世儒学の樹立に貢献した姜沆をたたえる元兵庫県知事金井元彦ら建立の碑文
15:30	姫路城 現在改修中の天守閣を外からまじかに見学できる。またとないチャンス。
17:00	J R 姫路駅
18:30	J R 新大阪駅
19:00	J R 天王寺駅
19:45	韓国民団堺支部到着

【解 説】

伽耶院 百濟姓について

神戸市北区淡河町僧尾に百濟姓の旧家がある。淡河町に隣接する三木市志染町は大和王朝の穀倉（屯倉）といわれた土地。古代朝鮮の小国「伽耶」に由来？の伽耶院もある。この寺の境内で百濟保孝氏に「百濟姓について」語っていただく。

藤原惺窩生誕の地

三木市細川町桃津 室町時代、京の都が焼野原になった応仁の乱の時、藤原定家の子孫冷泉家の一派が細川の荘に移住し土豪化していたが、赤松広通（後述）の同族である三木城主別所長治に夜襲され滅亡。定家から12代めにあたる惺窩は、七歳の時出家し、竜野の景雲寺で修行中であつたため難を逃れた。冷泉本家を頼って上京、相国寺の高僧となり、秀吉の朝鮮侵略で連行された姜沆（カンハン）と出会う。

三木城址 三木市上の丸

戦国大名別所長治の居城跡。長治は赤松広通と並んで、嘉吉の乱で滅んだ赤松氏再興の主峰。織田信長の中国地方制圧の戦略下、豊臣秀吉の兵糧攻めによって落城。別所一族の自刃を条件に、城中の生存者は全員解放された。秀吉によって惺窩は親兄弟の仇討をしたことになる。本丸跡には長い籠城戦を偲ばせる大きな空井戸が残った。

金物資料館 三木城址内

新潟三条、大阪堺と並ぶ三木の金物。館案内板には、そのルーツが、大和鍛冶と韓鍛冶であると表示されている。もともと宝塚と尼崎を結ぶ韓鍛冶の技術集団が先に渡来しており、その流れをくむのではなかろうか。

ホテルでのミニ講演

- ①愛媛県大洲市に建つ儒者姜沆の顕彰碑について 姜健栄さん（大同クリニック）
- ②朱子学伝授の姜沆と藤原惺窩と赤松広通について 藤原史朗さん（KMJ 常務理事）

天空の城 竹田城址

元は室町時代全国の六分の一を治めた山名宗全が、播磨・丹波から但馬への入り口に置いた支城で、3百数十メートルの典型的な山城である。お家再興に成功した赤松氏が秀吉の配下に入り、赤松広通の時、竜野城主から竹田城主になった。広通は竜野にいたころ景雲寺で修行中の惺窩と出会うが、もともと広通は、惺窩の母方の姻戚にあたる。広通は、秀吉の伏見城下の邸宅で惺窩を介して姜沆と出会った。広通は、姜沆を和田山に招くことを考え、その教えの下に、平和な但馬の国造りを志した。しかし、姜沆の祖国への帰還の思いは揺るがず、広通や角倉了以の子息で惺窩の弟子となった角倉素安の援助で一艘の船と食糧を買い、1600年4月帰国したため、広通の計画は挫折したのみならず、同年9月関ヶ原戦いで西軍に組したため、広通は自害させられた。以後、竹田城は廢城となり、東洋のマチュピチュと呼ばれる巨大な石垣の遺構が残った。

斑鳩寺に建てられた姜沆の碑文

朝鮮朱子学を日本に伝えたのは、豊臣秀吉の朝鮮侵略の時、朝鮮王朝の役人（工刑曹佐郎）で、藤堂高虎によって捕虜とされた姜沆であった。妻子を殺され、一族を引き裂かれ、日本に連行されてからも再々死の淵に立たされたが、朱子学の高い学識が彼の命を救ったともいえる。前述の藤原惺窩は、漢文の筆談によって姜沆から改めて朱子学を学び、仏教（禅宗）僧侶の教養のレベルから脱して近世儒学・朱子学を日本に樹立したが、それは姜沆との出会いがあつたればこそであった。斑鳩寺の碑文裏面には、赤松広通は、藤原惺窩と壬申倭乱で捕虜となって渡日した朝鮮の儒者・姜沆の三人で、伏見の赤松邸で「四書五経」の刊行を企画し、近世儒学の烽火をあげたとある。碑の建立者は東大教授阿部吉雄、作家有馬頼義、兵庫県知事(当時)金井元彦らである。

姫路城天守閣

今回のツアーと直接の関係はないが、改修中の大天守閣の瓦ぶき、窓、漆喰の壁などを直に特製のエレベーターで外から覗き見ることができる。またとない機会である。一度見ておけば、遠くから天守閣を眺めるたびに、その時の感慨がよみがえるというものだ。もともと1346年に赤松貞範が築城の平山城。その後秀吉が整備し、江戸幕府の下、池田輝政が大改造し、1609年までに5層6階の大天守、三つの小天守を擁する一大城郭となった。日本の敗戦まで、陸軍の師団がおかれていたが、奇跡的に空爆を免れ、原型をとどめた。

第11回KMJ会員フィールドワーク
申 込 用 紙
(FAX06-6717-2702)

申込日 2013年 月 日

参加者氏名	
連絡先住所 〒	
電話番号	FAX番号
団体名（会社名）	

*複数参加される場合は下記の欄をご活用ください。

フリガナ
名 前

フリガナ
名 前

フリガナ
名 前

フリガナ
名 前

*一人部屋を希望される場合はお申し込みください。

希望する

*出発地をご選択ください。

天王寺出発（9：00）

新大阪出発（10：00）

*下記欄には記入しないでください。

No	受付日	備 考